



岩手県医療的ケア児支援センター
相談窓口による当事者交流事業
「I care パーク」 【関連記事3ページ】



ご挨拶

社会福祉法人新生会

理事長 阿部 肇 男

令和6年の年頭にあたり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。皆様方には、日頃より当法人の事業運営にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年辰年と言うことで、昇竜の運気を期待しての年明けでしたが、元日には能登半島での地震、翌日には羽田空港での航空機事故と大きな出来事でのスタートとなりました。

身近に大震災を経験した者として何もできなくもどかしい限りですが、被災された方々には心からお悔やみとお見舞いを申し上げますとともに、避難生活を余儀なくされている方々におかれましては一日でも早く以前の生活に戻れますことをお祈りする次第です。

さて、終息を願ってやまないコロナ禍ですが、依然として散発的に感染が見られております。当法人に於きましてもご利用者や職員の感染により福祉サービスの提供

に少なからず影響が出ました。まだまだ安心はできない状況があり、改めて法人運営にあたっても気を引き締めなければならないと思っております。

昨年、新生会並びに新生園が40周年の節目を迎えることができました。その足跡は私どもにとって大きな財産でありますが、一方、施設の老朽化や地域福祉をとりまく諸環境の変化への対応が課題となっておりました。中長期的視野に立って、サービスの継続はもちろんのこと、ご利用者並びにご家族、そして地域との信頼関係をこれまで以上に構築し、使命であるより良い福祉サービスの提供と地域社会への貢献を目指し精進して参る所存です。

皆様方には変わらぬご理解とご支援をお願いしますとともに、この一年を健やかに過ごしていただけますようご祈念申し上げます、ご挨拶いたします。

岩手県医療的ケア児支援センター 相談窓口

相談支援事業

NICU(新生児集中治療室)等に長期入院した後、引き続き人工呼吸器や胃ろう等を使用し、たんの吸引や経管栄養などの「医療的ケア」を家庭や保育園、学校で日常的に必要とする「医療的ケア児」が増えています。全国で約2万人と推定され、岩手県には令和4年の調査で250名いることがわかっています。

令和3年9月に施行された「医療的ケア児支援法^{*}」に基づき、岩手県は令和4年9月に「岩手県医療的ケア児支援センター」を開設し、その相談支援窓口が社会福祉法人新生会みちのく療育園メディカルセンターに委託されました。今回は相談支援窓口の活動をご紹介します。



令和5年度は4月から12月までの9か月間で延べ206件のご相談がありました。個別ケースの相談と支援者からの相談がありますが、80%以上は支援者からの相談です。相談内容は、大学病院で生まれ、医療的ケアのある状態でお家へ帰るお子さんの在宅移行支援や、保育園、学校への就園就学に関するもの、医療や福祉に関するもの、教育に関するものなど多岐にわたっています。そのお子さんの病状やケア、発達についてもアセスメントを行いながら、地域で暮らせるよう、ご本人とご家族の希望を尊重し環境整備を行います。

医療的ケア児支援法を受け地域での受け入れは始まったばかりです。そのため、地域で支援している方々も戸惑うことが多いようです。支援者の皆様が安心して医療的ケア児を受け入れられるよう、地域の資源をハード、ソフト両面で情報収集し、地域に足りないものが何か、課題は何かを見極めながら、地域の支援者と一緒に地域づくりをしています。地域や自治体にも医療的ケア児等コーディネーターが配置されていますが、福祉職の相談支援専門員が担っている場合が多く、医療面での支援が不可欠となっています。

実際に現地に足を運び支援者の皆様とお話をしてみないとわからないことも多く、また、支援者同士の顔が見える関係性の構築にもつながるため、なるべく県内各地へ足を運んでいます。地域のコーディネーターさんと一緒に訪問するケースも増えており、少しずつですが地域の支援体制が作られている実感もあります。

岩手県医療的ケア児支援センターが開設されてから相談支援の業務を行うなかで様々な課題も明らかになってきました。地域で活動するコーディネーターが他の地域のコーディネーターと情報交換する場が少ない事や医療的ケア児やご家族の交流の場が少ないこと、実際に医療的ケアを見たことがない支援者も地域で支援をしていかなければならないこと、県内にはショートステイやレスパイト入院ができる施設が少なくご家族が疲弊していることなどです。その相談の一つ一つにも対応していますが、県レベルで資源の有効活用や小児在宅医療にも対応していかなくてはなりません。相談窓口として様々な主催事業を開催し、地域づくりに取り組んでいます。

※ 医療的ケア児支援法 … 医療的ケア児を子育てする家族の負担を軽減し、医療的ケア児の健やかな成長を図るとともに、その家族の離職を防止する目的で「医療的ケア児」を法律上できちんと定義し、国や地方自治体が医療的ケア児の支援を行う責務を負うことを明文化した法律。

地域体制構築事業

相談支援事業とあわせて、地域で医療的ケア児を受け入れられる体制作りの事業を展開しています。その中からいくつかの主催事業を紹介します。

活用可能な社会資源等の情報提供事業

「医療的ケア児のための就学・進学説明会」

県内6市(教育事務所管轄)で実施(盛岡市・宮古市・奥州市・二戸市・釜石市・花巻市)

【参加者総数75名】

岩手県教育委員会との共催で、医療的ケア児の就学に必要な情報提供をしました



当事者交流事業「I care パーク」

県内4市町で実施(盛岡市・紫波町・奥州市・宮古市)

①こどものあそび場②保護者の語り場を兼ね備えた「I care パーク」を開催しました。

支援者の目線になると「支援」に目が向きがちですが、家族にとってはこれは「子育て」です。子育ての楽しさ、子どもと過ごす時間の楽しさも、たくさん感じて、知ってほしいと思います。



参加者の声

- 「うちの子がこんなにおもちゃに夢中になってくれるなんて嬉しいかぎりでした!」
- 「ありのままのうちのの子を受け入れてもらえて、家族みんなで楽しい時間を過ごせて、とても嬉しかったです。」
- 「こども達には愛されていると感じる経験をたくさんさせてあげたいなあと思える一日でした。」

医療的ケア出張講座

コーディネーターの大力看護師が医療的ケアのモデル人形をもって県内各地で医療的ケアを知ってもらうための講座を実施しています。

参加者の声

- 人形だったら安心して移動体験ができる
- 医療的ケアって言葉は知っていたけど実際のケアは初めて見た
- 実際にやってみないとわからないことが多かった



地域で暮らすためのショートステイ 第1回勉強会

12月3日(日)オンライン開催



医療的ケア児の親の会、アイライン岩手の会が取りまとめた岩手県内60名の医療的ケア児者の保護者の声を紹介してもらいました。岩手県内で医療的ケア児を受け入れられる「医療型短期入所施設」は6ヵ所しかありません。

保護者の皆様からは「1日も早く安心、安全に利用できるショートステイを」、「暮らしを大切にしてくれるショートステイを」との声がありました。

岩手県医療的ケア児支援センターは

- ①統括 岩手県(障がい福祉課)
- ②相談窓口 社会福祉法人 新生会
- ③人材育成 社会福祉法人 岩手県社会福祉事業団

の3か所がそれぞれ役割を担って運営しています。私達社会福祉法人新生会に求められている役割を岩手のために、地域のために、全うしていきたいと思ひます。

岩手県医療的ケア児支援センター 公式LINEのご紹介

岩手県医療的ケア児支援センターでは医療的ケア児・者とその保護者の方向けの情報を発信しています。ぜひお友だち追加してください!



印刷科作業

（新生園）

パソコンを使用し、紙面の編集や校正までの全てを利用者様がを行っています。印刷、製本、配達は職員の役割、利用者様との共同作業で完成します。

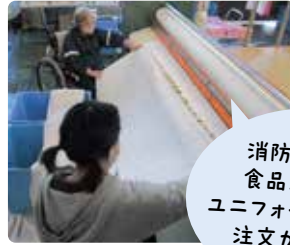


県庁や近隣の学校、会社等から名刺や冊子、大会パンフレット等、様々な注文が入ります。

洗濯科作業

（新生園）

車椅子の利用者様も作業しやすいようテーブルの脚の調節を行うなど、職員が見守り、利用者様が安心して作業が行える環境作りに努めています。



消防署や病院、食品工場等からユニフォームやシーツの注文があります。

メール便作業

（あさあけの園）



仕分け

メールの配達先を地図にマーキングし、配達順にそろえます。



「出発!」

雨の日も風の日も暑い日も寒い日も配達はあります。「みんな、気を付けて行ってらっしゃーい!」



「住所、良〜し!」
「表札、良〜し!」

しっかり確認して投函。地域の皆さんから「ご苦労様。」の声を頂き、配達足の足も軽くなります。

箱折り作業

（ワークセンターむろおか）

（第二新生園）（あさあけの園）

贈答用の箱などを成型しています。種類によっては紙が固く力やコツがいります。手袋をしないと指先がヒリヒリしますが、店頭と並んでいるのを見ると、この箱はもしかして自分が折ったのかも?と励みになります。



はい、できました!
外箱、中箱、蓋と、1つの製品にも数種類必要なのです。

新生会の働く

就労継続支援B型事業

新生会の利用者さんはどんな仕事をしているの? そのような声に答えて、法人の4事業所で取組んでいる「就労継続支援B型」を紹介します。

この他にも新生園の「生活介護」では裂き織やウエスづくり、ワークセンターむろおかでは「就労移行支援」でレストランあいなので接客業務などを行っています。

袋詰め作業

（ワークセンターむろおか）

乾燥椎茸や大豆、昆布などの袋詰め作業を行っています。規定数量を計測し、異物が入り込まないように細心の注意を払いながら、袋詰めています。



数を数えながら隙間なく詰めていきます。なかなかのコツが必要です。

ラベル・シール貼り作業

（ワークセンターむろおか）（あさあけの園）

手本の通りに曲がらないように貼っていきます。簡単そうですが、しわができないように、曲がらないようにと神経を使います。



自分たちで手掛けた商品が店頭にあるのを想像するとやる気が出ます!



チラシ折り・封入作業

（ワークセンターむろおか）（あさあけの園）

チラシを折込み、封筒に入れ、糊付けする作業です。三つ折りの幅を正しく合わせ、折り目が真っ直ぐつづくように一枚ずつ丁寧に仕上げていきます。



沢山の枚数を協力して行っています。

絵本作業

あさあけの園

中古絵本の清掃と、インターネット販売用の写真撮り、データ入力作業や梱包作業も行っています。本好きの利用者さんは、関わるのがとても楽しそうです。



カフェ・加工室作業

あさあけの園

カフェ「あさあけ」では、パンやクッキー、ロールケーキにアップルパイを販売しながら、自家焙煎のコーヒー、夏はかき氷を提供しております。どうぞ、お気軽にお立ち寄りください。



ミシン作業

ワークセンターむろおか

テーブルナフキン、タオル加工(バスタオル・フェイスタオル・バスマット)、シート修繕、ピロケースリメイク、浴衣の丈詰めなどを請け負っています。指示通り仕上げるため、集中してミシンを動かしています。また、縫われたテーブルナフキンの糸を締めたり切って整える作業も行っています。丁寧に伸ばして揃え、枚数ごとに束ねて納品します。



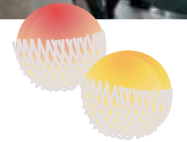
ミシン掛けのしまつを、手で丁寧にしています。細かい作業です。



フルーツキャップ作業

あさあけの園 第二新生園
ワークセンターむろおか

フルーツキャップ・ワインキャップの成型を行っています。輪ゴムを掛ける位置や、端を揃えて折ることに注意しています。週2回の納品日に間に合うように、毎日大人数で作業を行っています。



漬物作業(大根)

第二新生園

漬物用の大根の細かいひげ根を取る作業を行っています。サイズや時期によって受注量が違います。トラックへの積み下ろしも利用者さんが協力して行っています。



畑・野菜販売

第二新生園

大根、ジャガイモ、ピーマン、ナス、枝豆、大根を育てています。種まきや苗植えから、収穫物の袋詰め、販売までを行っています。収穫した野菜は園での給食に使用したり、法人内各施設、保護者へ販売しています。



資源回収作業

第二新生園

町内から回収された資源を分別する作業です。ペットボトルはラベルを剥がし、缶はアルミとスチールに分別します。新聞や雑誌、牛乳パックは紙紐でまとめて縛ります。



ワックス清掃・アパート清掃

第二新生園

あさあけの園

園内の食堂やデイルーム等のワックス掛けを定期的に行っています。利用者さんは物の移動、モップ掛け、水拭きを行います。新生園や本部からもワックス清掃の依頼があります。また、依頼を受け、アパートの共有部分の清掃作業も行っています。



缶バッジ作業

第二新生園

イラストを型取りし、バッジマシーンを使い作ります。イラストとフィルムの間に埃が入らないように注意しながら作成しています。



実践報告会のあゆみ

令和5年11月24日(金)、第21回実践報告会がハイブリット(会場とZoom配信)で開催されました。

今回は、いわて発達障害サポートセンターええ町づくり隊の高橋縁氏より「つながる社会の構築」の基調講演をしていただきました。その後、当園職員による演題発表として「余暇時間をもたらす水分提供の工夫」、「幅広い年齢層と障がい特性に合わせた療育活動の展開を目指した取り組み」、「当園入所利用者の骨粗鬆状態へのアプローチ」以上3題の実践報告を行いました。

記念すべき第1回目が開催されたのは今からちょうど20年前…。当初は「研究発表会」と称して開催していましたが、令和2年度より「実践報告会」と名称を改め続けてきています。これまでは保護者の方や関係者をお招きし、当園の会議室や法人本部を会場に開催しておりました。しかし、新型コロナウイルス感染症が流行してからは家族や関係者の方々を招待することが難しくなり、Zoom配信での開催となりました。

“Zoomってどうやるの?” “本当に私たちに開催できるの?”とゼロからのスタートでしたが、委員たちが試行錯誤しながら一生懸命に操作を覚え、有意義な報告会ができました。

この実践報告会を今後支援にしっかりと活かし、利用者の皆さんにより良い支援提供ができるよう努めていきたいと思っております。



第21回実践報告会



第15回研究発表会



研究年報



第16回研究発表会

1年を振り返って♪

利用者さんの素敵な表情をご紹介します!

今年度もまた、コロナ禍のため限られたなかでの活動や行事でしたが利用者の皆さんの笑顔を見るとこちらもとっても幸せな気持ちになります※
来年度も、もっとも一つと“楽しい!嬉しい!ハッピー!”を利用者の皆さんに届けていきたいなと思っております!



障害者週間

11月30日(木)～12月7日(木)「やはぱーく」の1階展示スペースで、「福祉について」「障がいについて」「発達障がいについて」をテーマにポスター・パネル展、モニターを使用しての福祉講座を開催しました。

障害者週間とは、国、地方公共団体、関係団体等が連携して障害と障害のある人についての正しい理解と認識を深めつつ、障害のある人の福祉の推進を図るために、全国的にこの時期に実施しています。

期間中は、多くの方に来場いただき、アンケート等を通じ、「写真やイラストが多く、内容が理解しやすかった」、「発達障がいは、親のしつけが原因ではないことが理解できて救われました」等と、様々なご意見をいただきました。しんせいスタッフ一同、大変嬉しく思っております。

今回の取り組みを通じ、地域住民の方に福祉・障がいについて、考えるきっかけになって頂ければ幸いです。



理解啓発講演会

2月18日(日)に、オガールの大スタジオにて「eスポーツで世界に挑戦!ゲームで広がる可能性」をテーマに、紫波町在住の畠山駿也さんに講演していただきました。

畠山さんを講師にお招きしての講演会は以前にも企画していましたが、新型コロナウイルスの感染の広まりにより開催日の前日に中止を決めるという、苦渋の決断をしておりました。それから、約4年…多くの方のお力添えにより、念願の開催となりました。

畠山さんは、指定難病の筋ジストロフィー症ですが、eスポーツプレイヤーとして、そして会社員として様々な企画の取り組み、また講演会の講師ほか、活躍されています。講演会では「現在の取り組み」のほか、「これまでのいろいろなこと」、そして「これから」について、たくさんお話をいただきました。

当日は紫波郡内はもとより、遠方からも多くの方にご参加いただきました。

講演をしていただきました畠山駿也さん、ご来場をいただいた皆様、本当にありがとうございました!

※ eスポーツ … 「Electronic Sports」の略で、コンピューターゲームやビデオゲーム、モバイルゲームを使ったスポーツ対戦競技。



新生園の裂き織が内装材に

11月末に矢巾町に完成した東北最大の物流拠点施設「プロロジスパーク盛岡」に、新生園の裂き織が内装材として活用されました。

「地域の工芸品を取り入れた内装にしたい」と業者様から矢巾町産業観光課様に相談があり実現したものです。

建築士のお二人が裂き織の現物を丁寧に確認され、幾度となる調整を重ねて完成に至りました。創立40周年を迎えた私達にとって大変貴重な機会となりました。

壁から天井に掛けて、綺麗に施され、エレベーターを待つ間に、じっくり眺められます。→



↑ 裂き織についての銘板も設置されています。

障害者支援施設 新生園

共同生活援助事業所 新生ホーム

新生ホームの年末は 『クリスマス会』で盛り上がる!

12月25日はホームごとにクリスマス会をしました。

豪華なオードブルを食べて、大満足(^^) /

サンタクロースからクリスマスプレゼントをもらって大喜びでした!



【ここかむ食堂】のクリスマス会に参加しました。

※【ここかむ食堂】とは、矢巾町母子寡婦福祉協会が主催しているコミュニティ食堂で、新生会は今回で3回目の参加となります。

子どもたちと一緒にケーキを作ったり、パズルで遊んだり、等々。職員がサンタクロースに扮し、お菓子をプレゼントするサプライズも。暖冬とは打って変わりとても寒い日でしたが、たくさんの笑顔に、私たちの心も温くなりました。

新生会では、今後も地域貢献活動に取り組んでいきたいと考えています。



令和5年度全国社会福祉協議会会長表彰受賞

ワークセンターむろおか 山内雄幸 施設長
 新生園 畑 育子 総務支援部長
 みちのく療育園メディカルセンター 中村純一 療育部長

※同一法人における在籍年数が30年以上の職員へ贈られる永年勤続功勞表彰です。理事長から伝達されました。



HIKARE ～光れ～ インフォメーション

あさあけの園・「ありがとう」ギフト



あさあけの園の、クッキー・サブレ・ワッフルは全部で9種類。おやつに丁度良いサイズで、1袋130円とお手頃。ティータイムのお供、ちょっとしたプレゼントにもピッタリ！
 予算に応じて、ギフトボックスにお詰めすることも出来ます。

※クッキーの種類は、「あさあけの園」ブログで紹介中です。

編集後記

新年を迎え、最初の広報誌「HIKARE」をお届けしました。今年も引き続き、皆様にご愛読いただけるよう内容を工夫したいと思います。

さて今回は、岩手県医療的ケア児支援センターと就労継続支援B型事業を特集し紹介させていただきました。これからは法人の理念「輝く命」のもと、地域のニーズに応え、利用者様へのよりよいサービスの充実に努めて参ります。

(TK)



1 社会福祉法人新生会 法人本部事務局

〒028-3625
 岩手県紫波郡矢巾町大字室岡第12地割128番地1
 電話：019-611-0242 FAX：019-611-0252

2 障害者支援施設「新生園」

〒028-3625
 岩手県紫波郡矢巾町大字室岡第12地割125番地
 電話：019-697-6831 FAX：019-697-8248

3 障害者支援施設「第二新生園」

〒028-3617
 岩手県紫波郡矢巾町大字太田第17地割54番地
 電話：019-697-8011 FAX：019-697-8013

4 医療型障害児入所施設

「みちのく療育園メディカルセンター」
 〒028-3623
 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第24地割1番地
 電話：019-611-0600 FAX：019-611-0601
 医療的ケア児支援センター（相談窓口）
 電話：019-611-0610

5 多機能型施設「ワークセンターむろおか」

〒028-3625
 岩手県紫波郡矢巾町大字室岡第12地割124番地
 電話：019-697-6856 FAX：019-611-1666
 エコレストランあいのの
 〒028-3605
 岩手県紫波郡矢巾町大字間野々第12地割50番地
 電話：019-681-0304 FAX：019-681-0306

6 多機能型事業所「あさあけの園」caféあさあけ

〒028-3614
 岩手県紫波郡矢巾町大字又兵工新田第6地割17番地2
 電話：019-697-6537 FAX：019-658-8538

7 相談支援事業所

「障害者地域生活支援センター しんせい」
 電話：019-697-3300 FAX：019-601-2826
 紫波地域障がい者基幹相談支援センター
 電話：019-601-2805 FAX：019-601-2826
 〒028-3614
 岩手県紫波郡矢巾町大字又兵工新田第6地割17番地2

8 共同生活援助事業所「新生ホーム」

・室岡ホーム・見前ホーム・中島ホーム・第二中島ホーム
 〒028-3625
 岩手県紫波郡矢巾町大字室岡第12地割70番地9
 電話：019-611-1199 FAX：019-601-2380